

第11回公立大学法人福井県立大学評価委員会 概要

平成23年1月18日(火)

14:00~15:30

県庁7階 特別会議室

(出席者)

打本委員、加藤委員、安久委員

(欠席)

秋山委員、吉村委員

【議事】

- (1) 県立大学改革構想委員会報告書について
- (2) 次期中期目標・中期計画策定に向けたスケジュールについて
- (3) その他

議事に先立ち、委員長の選任を行い、吉村委員を委員長に選出した。

なお、吉村委員は欠席のため、打本委員を委員長代理として議事を進行。県立大学改革構想委員会報告書(案)について県立大学から説明があり、質疑応答が行われた。

次期中期目標・中期計画策定に向けたスケジュールについて事務局から説明があり、質疑応答が行われた。

平成21年度業務実績評価において当評価委員会が指摘した事項に対する県立大学の対応状況等について県立大学から説明があり、質疑応答が行われた。

【主な発言要旨】

県立大学改革構想委員会報告書について

(委員) よく出来ている報告書でこれから楽しみだなという思いで聞いていた。大学での教育内容や学生の就職については大手志向、看護関係では大病院志向となるのは当然のことと思うが、一方で地域貢献ということを考えた時に、地域医療を担う中小病院に若い看護師人材が得られない問題があり、地域の病院の質を高めることに県立大の看護福祉学部が何か貢献できないものか。

(県立大) 看護の場合、大病院では夜勤や救急医療など厳しい就労環境であると聞いているが、一方で地域の医療現場ではそれほどではないと思う。

今、大学内で話をしているのは、大病院に就職し、一旦、子育てなどで退職した看護師が地域の医療現場に復帰を希望する場合に大学として支援できないかということである。

(委員) そういったことも大事なことだと思うが、若い人材が中小の病院に魅力を感じないのは、50～100人程度の看護師を擁している中堅の私立病院であっても大病院と比較して看護教育の弱さ、看護部といった組織面での弱さがあるからだと思う。看護の内容は大病院と遜色ないレベルのものを提供できているが、教育面や組織管理面で弱い。

大学として、そういった管理面、システムのあり方について支援ができないか検討していただけたらと思う。

(県立大) 看護のマネジメントシステムという視点は、恐らく現在の看護の教育にはないと思う。ご指摘いただいた点は大学に持ち帰り、看護福祉学部長に伝えたい。

(委員) ここ数年、経済のグローバル化が著しく進んでおり、報告書にも大学のグローバル化が謳われている。これからの検討事項だとは思いますが、何か重点的にやっていきたいことがあればお聞かせ願いたい。

(県立大) 大学を取り巻く環境として避けられないことは、18歳人口の減少とグローバル化の進展である。グローバル化に関して大学がしなければならないことは、これから社会へ出る若い人材の国際的センスを高めるということ。私は今年1年間、まず平均まで持っていきたいということで国際化に関する様々な動きを模索してきた。これからは、報告書にもあるが、語学教育、情報教育をより重点的にやっていきたい。英語が大事ではあるが、英語以外のアジアの言語にも自信を持って社会に出て行くような教育を行っていきたい。

国際化というのはある程度、外国人との接触の機会をどんどん増やさないと国際的なセンスは養われない。大学としてそういう接触の機会をどう作っていくのか、あるいは学生を外国に送り出すということも考えていく必要がある。国際的な環境の中で何を学ぶのかという中身の問題は、各学部での専門的教育とも関係してくる。

具体的にどうするかということについては、これから皆さんと相談してやっていきたい。

(委員) そのとおりだと思う。改革構想委員会の議論の中で、「全寮制」や「インターナショナルハウス」などに言及されているが、良いなと感じている。私も昔、「英語村」を作ってはどうかと提案したことがある。ある一画を「英語村」にして外国人が多数来るような環境を作るといったもので、ある種、夢物語のようなものであった。是非、大胆なグローバル化を具体化していただきたい。

(県立大) 「英語村」までは無理かもしれないが、大学キャンパスの中に英語しか使えない空間を作れないか検討している。

(委員) 現在は日本の企業がどんどん海外に進出していて、海外の日本企業の現地社員と付き合うにも英語が必須の状況である。語学的重要性はひしひしと感じている。大学でも講義を英語だけで行うとかどんどんやられたら良い。

(県立大) 今回の報告書の中で大きく3つの議論がある。1つは国際化の話。かなり大きな設備がいるような構想もあり、そのままでいいにしても何とか進めていきたいと思う。もう1つは地域経済研究所の機能強化の話。最後は教員の評価制度の話である。非常に良い大学になってきているものの、開学後約20年を経過して瀕みができつつあるということも事実である。

(委員) 語学教育の重要性に関してだが、昨年11月に公認会計士の世界大会がクアラルンプールであり参加したのだが、会議は全て英語でスピーチ、講演が行われ、語学的重要性を痛切に感じた。日常会話、あるいは自分の専門分野については専門用語を駆使して会議に出た時に理解・発言できるようなことが当然必要になってきているのではないか。少なくとも若い世代には、学問の目的として英語の習熟があるのではなく、当然の前段階として英語の能力が備わっているというシステムを考えなければならないのではと感じている。

もう一つ、教員評価に関してだが、私は監査をしていた関係で石川県内の私立大学の理事長と意見交換をさせていただいたことがある。その大学は就職率の高さで全国的にも有名であるが、大学の特色として、大学に入る時はそれほど学力が高なくても、大学を出る段階では金沢大学卒業レベルに引き上げるということをして売りにしている。そういう点で、教員の評価については、学生に磨きをかけることができない教員には報酬面や勤務面で厳しい評価を行っている。こういう学校もあるのかなと感じたが、教員評価ということでは一つの方法だと思う。研究は研究で大事だが、学生の教育という面で評価されるということも必要だと思う。

報告書については、総花的といえれば総花的だが、目標としては高いところを目指しておられるし、良いのではないかなと思う。

(県立大) 語学というのは必要性があればやらざるを得ないもの。語学の必要性を作り出すのが大学での語学教育のあり方だと思う。

また、福井の学生にもう少し積極的に外向きに自己アピールするとか、プレゼンテーション能力の向上、厳しいディベートにも負けないような気持ちを持ってもらうためにも、このグローバル化を一つのきっかけとして学生を教育していきたい。

教員の評価については非常に微妙な問題も含んでいるが、私も執行部として、これから大きく改革をしていかないと大学が駄目になってしまうと考えているので、いろいろな方と相談しながら

ら腰を据えて取り組んでいきたい。

次期中期目標・中期計画策定に向けたスケジュールについて

(委員) 利益剰余金の処分承認の件であるが、国立大学法人では自助努力で自主財源を獲って、ある程度剰余金が出た場合に、法人の中で自由に使える財源として残すためには教育研究の目的のために必要という筋書きがないと国庫返納ということだったと記憶している。地方独立行政法人の場合はどうなっているのか？

(事務局) 剰余金については、「積立金」として積み立てる方法と「目的積立金」として積み立てる方法がある。現在は「目的積立金」として積み立てている。中期計画の中に剰余金の使途が定められており、「教育研究の質の向上」「組織運営の改善」「施設設備の改善」というように使途を限定している。こういう目的であれば目的積立金として積み立てることができるかとされている。

(委員) そういった目的とリンクしていれば、剰余金を処分できるということですね。

(事務局) そうです。

その他(平成21年度業務実績評価指摘事項に対する県立大学の対応状況等)

(県立大) 戦略的な施策、大胆な大学改革構想

外部有識者による改革構想委員会設置。

語学教育の強化、国際化への対応

海外語学短期留学制度創設。23年度は中国語も視野に入れたい。

プロジェクトコーディネーターの確保

プロパー職員の雇用について今後検討したい。

教育の情報化

Fレックス事業を本学教員が中心となって推進。ユーザー登録者数、実利用者数、コミュニティ数とも順調に増加している。

キャリアセンター

22年10月に専任教員採用。本学独自のキャリア教育カリキュラムを作成。

大学として戦略的な研究推進

研究センター大学として、研究環境、研究条件を側面から支援していきたい。

ティーチングアシスタント、リサーチアシスタントの配置

生物、海洋生物の2学部について、スチューデントアシスタント制度(学部生レベルの教育研究支援員)を創設。

地域経済研究所のシンクタンク機能強化

経済界のニーズも踏まえて内実を備えたものにデザインして
いきたい。

若手研究者への支援

学長裁量枠B（研究活動活性化枠）を外部資金を初めて申請
する若手研究者も対象となるよう制度改正。

地域貢献等の専門オフィス設置

国際交流に関する専門オフィスおよび学内委員会を設置予定。

教員評価制度

改革構想委員会の議論も踏まえて、より実質的な評価制度と
なるよう検討していく。

教員の昇任制度

理事長、学長の判断で学部長推薦リスト以外の者を昇任させ
ることも可能とした。

（委員） 国際交流の観点だが、駅などの表示では韓国語や中国語での併記
がされていることが多い。キャンパス内の表示でも韓国語や中国語
での表記を検討してみてはどうか。

また、地球を縦軸で見て、日本との時差1時間以内の地域（東南
アジアやオーストラリア東海岸、ニュージーランドなど）を国際交
流のターゲットとして考えてみるのはどうか。

さらに、英語の聞き取り能力を強化することも必要ではないか。

以 上